



カエルは、どうして水辺が好きななの

たまご こ と子どものときは、すいちゆう 水中でくらす

ほとんどのカエルは、子どものときはオタマジャクシで、水の中で大きくなります。また、ヒキガエルのように、ふつうは、水辺からはなれた所でくらすカエルでも、産卵のときだけは、水辺に来ます。ですから、カエルが生きていくためには、どうしても水辺が必要なのです。

オタマジャクシは、魚と同じように、口から水を吸いこみ、えらから酸素を体に取りこむ、えら呼吸をしています。ところが、カエルになると、人間と同じような肺ができ、肺呼吸をするようになります。でも、カエルは、肺で呼吸する動物の中では、たいへん原始的な肺をもっているため、皮ふ呼吸も行っ、肺呼吸をたすけています。

ひ こきゆう 皮ふ呼吸をするカエルは、みずけ ひつよう 水気が必要

ふつう、呼吸をするとき、酸素は水にとけた形で取りこまれます。そのため、カエルの皮ふは、さわるとぬめっとして、いつもぬれています。いつもねん液が出ていて、皮ふがかわかないようにしているのです。カエルが水辺にいたなら、皮ふがかわきそうになったら、水にとびこみさえすればいいのでから、安心してくらすませます。

ヒキガエルのように、水辺でない所でくらすしていたり、モリアオガエルのように木の上でくらすしているカエルは、湿った土の中の水分や、たまり水、夜つゆなどをじょうずに利用しているのです。（監修・今泉 忠明）

